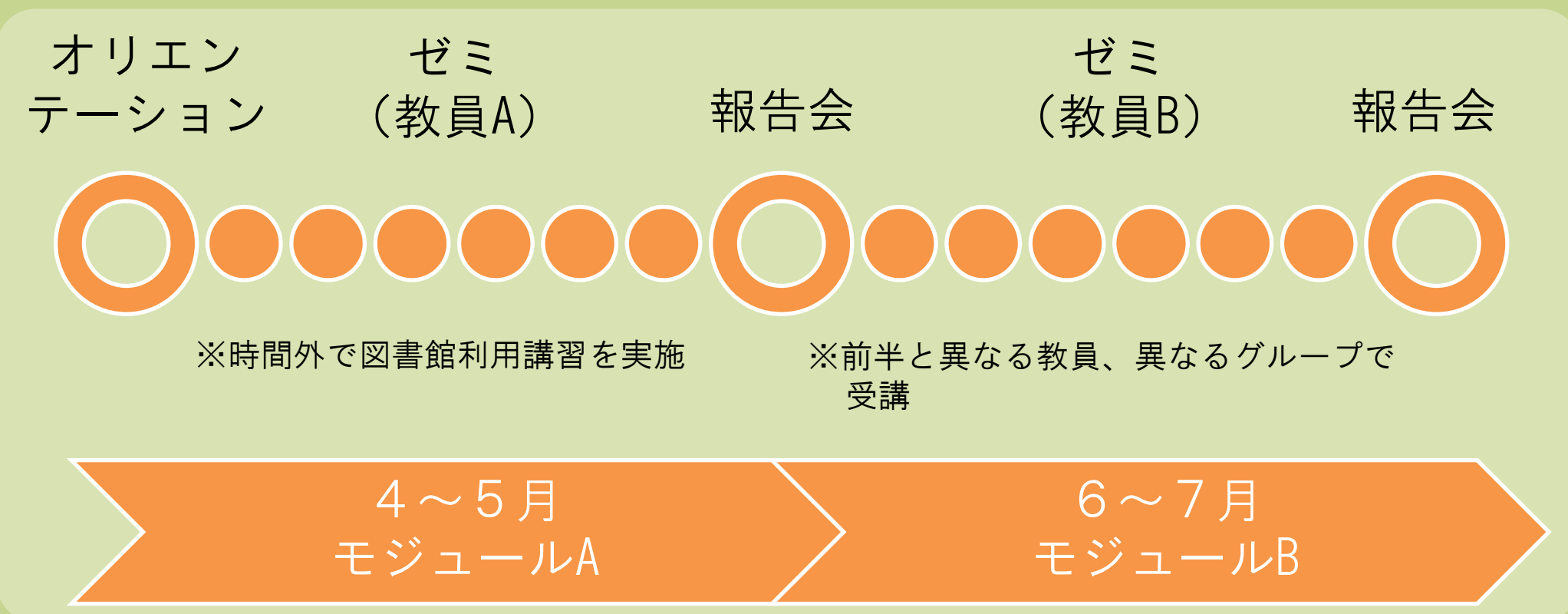


# 九州大学教育学部における初年次教育科目導入の取り組み —コアセミナー（教育学部基礎セミナー）の展開と評価—

## P コアセミナーの計画



上記のような実施スケジュールのもと、大学になじみ、将来も考えながら、教育学や教育心理学、それらに関連する学問を学ぶための基本、

- (1)問題に気づくこと
  - (2)自ら考え、発想すること
  - (3)自分の考えをまとめ、発表すること
  - (4)異なる考えや意見に耳を傾けること
  - (5)自分の知的活動を振り返ること
- などを習得する科目として計画。

## D コアセミナーの創意工夫点

### 1 10名以下のゼミ形式

講義形式・オムニバス授業ではなく、教員が小さなクラスサイズで学生を指導する体制を取ることで、より深くきめ細かな指導が可能となる。また、低年次学生との数少ない接点となる。

### 2 前半と後半の入れ替え制

教育学系と教育心理学系の教員からそれぞれ授業を受けることができる。教員にとっても、前半と後半で10名を超える学生と接点を持つことができる。

### 3 モジュールごとのステップアップ

モジュールAとBは同一内容での開講ではなく、ステップアップを意識して構成する。モジュールAでは、教育学部にきた動機を振り返る活動などから、自分の問題意識に気づかせ、簡単な研究計画を作る活動を行い、モジュールBでは、それを社会的諸問題と関連付けたり、他の人と共有できる課題にして「大学(教育学部)で何を学ぶか」という明確な課題を立てる活動を行う。

### 4 報告会の実施

グループ内での協力や、成果物のアウトプットの機会として、各モジュールの最後を報告会にあてている。これは、教員相互で実施内容を共有化する機会でもある。

## A 課題を踏まえた改善策

### 1 趣旨の共通理解へ向けたパンフレット作成

学部長裁量経費により、コアセミナーの趣旨を解説するパンフレットを作成する。パンフレットには、実施上の工夫点4点を盛り込む予定である。また、本取組評価の報告書を作成し、学部FD後の懇談会で報告する予定である。

### 2 次年度担当者による取組評価活動

次年度授業担当者の積極的な関与を得ている。一部の座談会にも同席した。

### 3 座談会によるニーズ把握

大学入学後の授業にどのような要素が必要かという問いかけに対して、ディスカッションとレポート作成に対する要望が多いことが明らかとなってきた。

### 4 カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーとの連動

教育学部教育の目標や到達目標を踏まえて本科目を位置づける。このために、教員間での協議の機会を設ける。

## C コアセミナーの取組評価と課題

### 1 実施理念の共有不足

学生にとっても教員にとっても科目の趣旨が伝わっていないため、活動の必然性や重点を置くべきポイントが理解されていない。モジュールごとのステップアップを踏まえずに授業にのぞむ教員や、発表会へ向けての準備が遅い学生グループが存在する。

### 2 未開発な組織と教授スキル

教員間のコミュニケーションが密でないため、前半と後半の接続が図られにくい。

ゼミ形式の授業を得意としない教員が存在し、受講学生が戸惑う場面がある。また、グループ内での発表準備分担の偏りを放置したり、発表へ向けた手立てを講じない教員も存在する。その結果、受講生から「発表会の質が低い」、「趣旨が分からなかった」といった声が聞かれている。また、グループ割り振りが希望制でないことと相まって、教員の「当たり外れ」として認知されたり、年度ごとの内容のばらつきを生んだりしている。

### 3 共通内容と教員の創意工夫のバランス

開講内容が各教員に任されているため、ガイダンス的内容、基礎的知識、文献の検索方法、レポートの書き方、ディスカッションの方法といった要素が思い思いに盛り込まれ、各グループの内容がバラバラとなっている。

### 4 学部低年次カリキュラムの不明確さ

本科目を学士課程の中でどう位置づけるかという問題が未解決である。1年前期で開講されている教育学部関係の科目は本コアセミナーしかない。これが新生の学習意欲や適性を見極めの機会を奪っているという声が聞かれた。

## 取組評価活動の内容

### 1 受講経験者による座談会

第1期生(2006年度入学生、現M2)から、第6期生(2011年度入学生、現在の1年生)まで、学年ごとに座談会を実施(計35名の協力を得る見込み)。教育学部のカリキュラム、あるいは正課外活動の中で、コアセミナーでの体験がどう生きたかを収集している。

### 2 受講者アンケートの実施

2009年に受講者アンケートを実施し、運営上の問題点などを洗い出した。

### 3 先進事例調査

他専攻、他大学の初年次教育に対する取り組みを調査する。

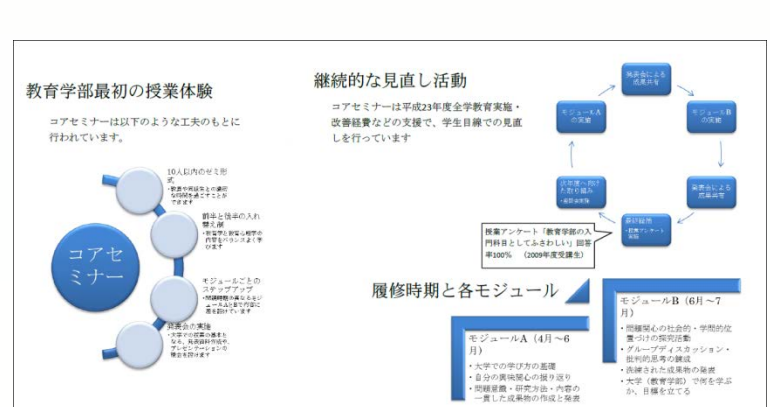
※次年度担当者を含むメンバーで実施

## Website

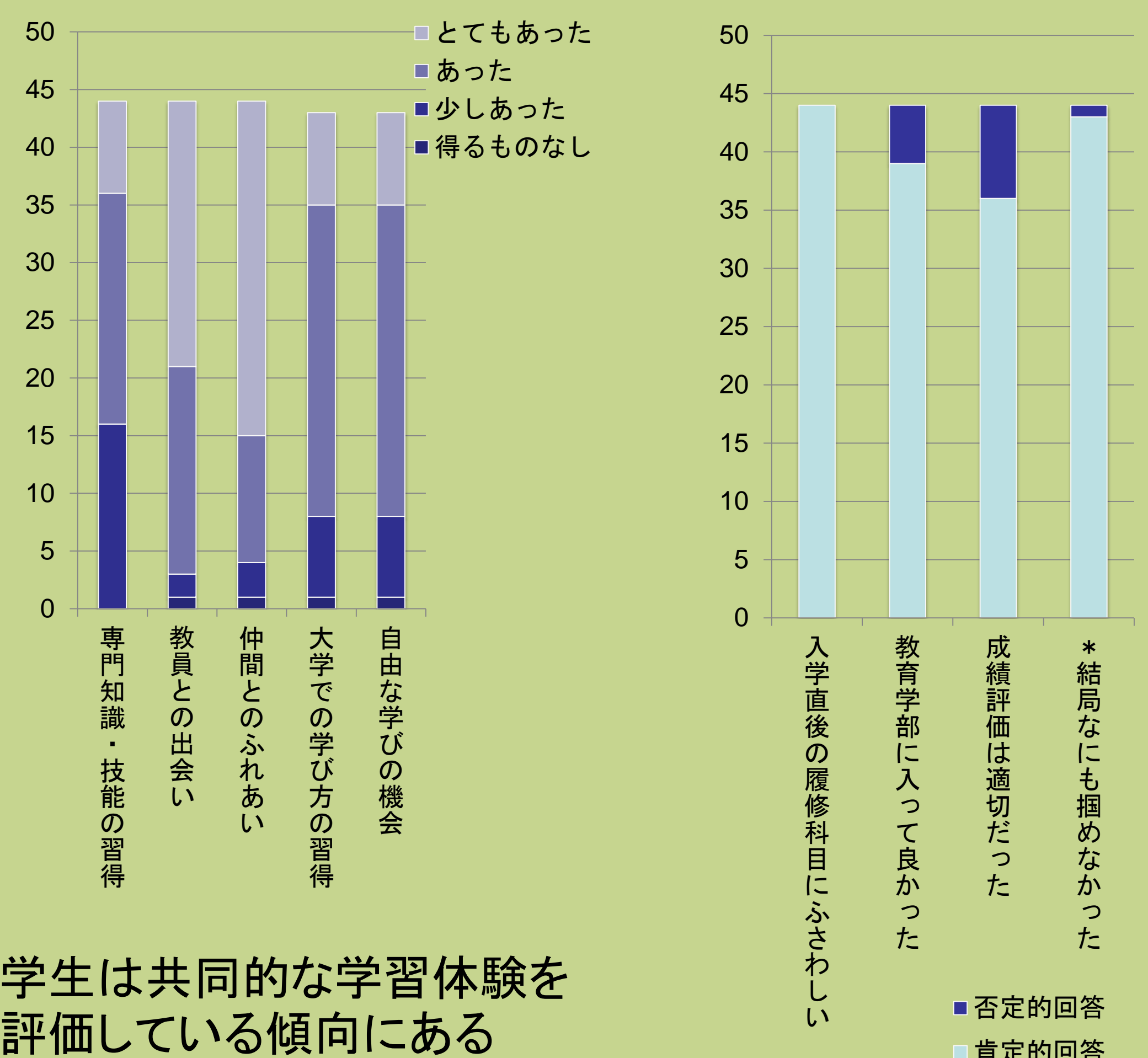


<http://www.education.kyushu-u.ac.jp/~motokane/index.php?id=199>

## Brochure



4月完成予定



学生は共同的な学習体験を評価している傾向にある